

PRESS RELEASE

報道機関各位



学校法人尚絅学園 学園事務局 総務課
熊本市中央区九品寺2丁目6-78
TEL 096-364-0116

平成30年8月22日

【 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 】に関するお知らせ

尚絅学園創立130周年記念

平成30年度「尚絅公開講座」の開催について

尚絅大学・尚絅大学短期大学部では、「人間探求～原点から未来へ～」のテーマで尚絅公開講座を開催します。

今年度は、学園創立130周年を記念し、マンガ・文学・教育・食・終活など、バラエティに富んだ内容です。それぞれの教育・研究分野の原点を見定め、歴史を振り返りながら、最新の研究動向もわかりやすくご紹介します。

記

テーマ： 人間探求 ～原点から未来へ～

- 日時 平成30年9月3日（月）～平成30年9月7日（金）
- 場所 九品寺キャンパス大学1号館10階ホール（熊本市中央区九品寺2丁目6番78号）
※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。
- 内容

開講日	I(9:30～11:00)	II(11:10～12:40)
9月3日 (月)	開講式 免疫学のあゆみと発展 ～免疫と疾患、免疫力を高める食生活～ 尚絅大学生活科学部 教授 坂田 敦子	英語を「 ^{そもそも} 原点」から考える 尚絅大学現代文化学部 教授 竹下 裕俊
9月4日 (火)	アメリカ短編作家 オー・ヘンリーの魅力を探る 尚絅大学生活科学部 教授 田口 誠一	生は響き続ける ～欧米の前衛芸術と人間の始原的音表現～ 尚絅大学短期大学部幼児教育学科 教授 曾田 裕司
9月5日 (水)	味を感じるしくみ ～私たちにとって味覚のもつ意味は？～ 尚絅大学短期大学部食物栄養学科 教授 長谷川 佳代子	近世ヨーロッパの家政論と 子どもの〈教育〉 尚絅大学短期大学部幼児教育学科 教授 柴田 賢一
9月6日 (木)	子どもへの罰からみえる 教育の歴史 尚絅大学現代文化学部 助教 水谷 智彦	手塚治虫と劇画 多様な日本マンガの原点 尚絅大学現代文化学部 准教授 三浦 知志
9月7日 (金)	国文学から日本文学へ ～古典・漱石・春樹～ 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 学長 森 正人	終活入門 ～備えあれば憂いなし～ 尚絅大学短期大学部総合生活学科 教授 川口 恵子

閉講式後に受講者と講師の懇談会(茶話会)を開催

- 受講料 受講講座数に関係なく、資料代実費として2,000円徴収 高校生は無料
- 申込先 〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78
尚絅大学・尚絅大学短期大学部 庶務会計課
WEB <http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/> ※詳細は別添リーフレット参照

※受講された方は、本年度中(平成31年3月31日)まで尚絅大学図書館(本館)を利用いただけます。

※送付資料 3 枚(本紙を含む)

【本件に関わる問い合わせ先】

担当部署： 庶務会計課 担当： 荒木

電話： 096-362-2011

E-mail : kokai@shokei-gakuen.ac.jp

平成30年度

尚絅公開講座

人間探求

— 原点から未来へ —

尚絅大学・尚絅大学短期大学の公開講座を開催します。
皆様多数のご来場をお待ちしております。

【開講日時と講座内容】 主催：尚絅大学・尚絅大学短期大学部

開講日	I (9:30~11:00)		II (11:10~12:40)	
9月3日 (月)	開講式	免疫学のあゆみと発展 —免疫と疾患、免疫力を高める食生活— 尚絅大学生生活科学部 教授 坂田 敦子	英語を「 ^{そもそも} 原点」から考える 尚絅大学現代文化学部 教授 竹下 裕俊	
9月4日 (火)		アメリカ短編作家 オー・ヘンリーの魅力を探る 尚絅大学生生活科学部 教授 田口 誠一	生は響き続ける —欧米の前衛芸術と人間の始原的音表現— 尚絅大学短期大学部幼児教育学科 教授 曾田 裕司	
9月5日 (水)		味を感じるしくみ —私たちにとって味覚のもつ意味は?— 尚絅大学短期大学部食物栄養学科 教授 長谷川 佳代子	近世ヨーロッパの家政論と子どもの〈教育〉 尚絅大学短期大学部幼児教育学科 教授 柴田 賢一	
9月6日 (木)		子どもへの罰からみえる教育の歴史 尚絅大学現代文化学部 助教 水谷 智彦	手塚治虫と劇画：多様な日本マンガの原点 尚絅大学現代文化学部 准教授 三浦 知志	
9月7日 (金)		国文学から日本文学へ —古典・漱石・春樹— 尚絅大学・尚絅大学短期大学部 学長 森 正人	終活入門 —備えあれば憂いなし— 尚絅大学短期大学部総合生活学科 教授 川口 恵子	閉講式

※閉講式後に「受講者と講師の懇談会（茶話会）」を開催します。

【開講場所】尚絅大学・尚絅大学短期大学部 九品寺キャンパス大学1号館 10階ホール

熊本市中央区九品寺2丁目6番78号 ※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

【対象者】男女、年齢に関係なく、受講できます。

【受講料】受講する講座数に関係なく、資料代実費として2,000円をご負担いただきます。
なお、高校生は無料となります。

【申込期限】8月24日(金)締切

【申込方法】はがきに①郵便番号、②住所、③氏名(フリガナ)、④年齢と性別、⑤電話番号、⑥受講希望講座名、⑦前回受講の有無、⑧懇談会の出・欠を書いてお申し込みください。

なお、当学園webページ又はE-mailでもお申し込みできます。

個人に関する情報は、公開講座に関してのみ使用させていただくことを申し添えます。

※受講される方には受講証をお送りし、当日講義録をお渡します。

※全講座を受講された方には「修了証書」を授与します。

※本年度中(平成31年3月まで)尚絅大学図書館(本館)を利用いただけます。

【申込み・問い合わせ先】

尚絅大学・尚絅大学短期大学部
庶務会計課

〒862-8678
熊本市中央区九品寺2丁目6-78
TEL:096-362-2011
E-mail:kokai@shokei-gakuen.ac.jp

尚絅学園WEBページ

<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/>

平成30年度「尚綱公開講座」各講義の概要

テーマ：「人間探求 － 原点から未来へ －」

講師名	講義概要
坂田 敦子	免疫は、外界のウイルスや細菌などから私たちの身体を守る生体防御機構であり、その破綻は様々な病気を引き起こします。免疫の発見からそのメカニズム解明まで免疫学のあゆみを説明するとともに、現代の研究や医療に利用されている免疫の応用や今後の展開についてお話します。また免疫を高める食生活の工夫についてご紹介します。
竹下 裕俊	そもそも「英語」とはどういった言葉なのでしょう。いつから使用され、どのような特徴を持っているのでしょうか。本講義では、巷にあふれる「実用英語」の世界を離れ、時にその長い歴史を振り返りつつ、また時に日本語との比較をとおして、言葉としての英語をいろいろな面からじっくり観察したいと思います。英語の新たな一面との出会いによって、異国の言葉を学ぶ喜びがさらに深まるかもしれません。
田口 誠一	オー・ヘンリーは「意外な結末」を得意とするアメリカの短編作家です。世界の多くの国々の読者によって作品が愛読されています。日本でもかなりの作品が翻訳され、原作を平易な英語に直して中学校や高等学校の英語教科書にも掲載されています。しかしながら、オー・ヘンリーの作品はアメリカ文学史ではほとんど触れられておらず、一般的に芸術的評価が低いとされています。英語教科書に掲載された作品にも言及しながら、オー・ヘンリーの魅力を探ります。
曾田 裕司	近現代人は新しい音楽を追求してきました。それは音を複雑に組織する方へも向かいましたが、逆に近代化の中で見落とされがちで、人間が本来備える自然なあり方を見直す動きにもつながりました。本講座では、日常生活で生きること自体から音楽は湧き出る、と考えた人々についてお話します。そして、それを最も自然に実行しているのは、実は乳幼児ではないかということを考えたいと思います。
長谷川佳代子	私たちは、食物の味を、甘味、塩味、酸味、苦味、うま味という5つの基本の味を混合したものとして感じ、評価し、摂食し、日々暮らしています。その食べ物を摂取するかしないかの決め手は、その食品がもつ味であることは、皆さんもご存知でしょう。でも、なぜある味は好まれ、ある味は嫌われ拒否されるのでしょうか。それは、その摂取が生体に与える影響を、それぞれが持つ味により脳が判断しているからです。今回は、味を感じるしくみや、食行動に味覚が果たす役割などについてお話します。
柴田 賢一	およそ17世紀ごろまでのヨーロッパには家の中で行われるありとあらゆることに関する学として「家政学」がありました。このオイコスの学とも呼ばれた家政学の中に子ども〈教育〉も含まれたのですが、現代でいう「教育」とは少しイメージの違うものでした。この講義では、近代以前の子ども〈教育〉を中心に、オイコスの学（オイコノミア）の歴史をたどり直していきたいと思います。
水谷 智彦	教育は、子どもを罰することと不可分の関係にあります。とりわけ学校は罰の方法を洗練させつつ、子どもを社会の一員にするために働きかけてきました。教育と罰の歴史はこれまであまり取り上げられてきませんでした。罰は人間形成の原点であると同時に、教育上の問題を考える重要な視点になります。講義では子どもに罰を与えることの意味を、その歴史を繙きながら考えます。
三浦 知志	日本マンガの特徴のひとつに「他国とくらべてはるかに多様なジャンルの存在」が挙げられます。日本では当たり前の「少女マンガ」「スポーツマンガ」「料理マンガ」といったジャンルは、じつは海外ではあまり発展していません。日本マンガが多様なジャンルをもつようになった原点はどこにあるのか。この問題の答えとして、本講義では手塚治虫について、および「劇画」というマンガ表現について概説します。
森 正人	東京大学に国文学科が設置されて約130年、大学におけるこの分野の教育・研究の歩みを振り返ります。そして、現在の国文学あるいは日本文学の研究状況を概観したのち、夏目漱石、村上春樹という国民的作家の作品を、古典の引用・摂取という観点から読み解きます。さらに、春樹の小説における漱石作品の引用とずらしを手がかりに、両作家の関係を探りつつ、彼らの作品の問題の広さと深さ、現代的意義について述べます。
川口 恵子	近年、超高齢社会を反映して「終活」という言葉を耳にすることが多くなりました。「終活」は、2009年（平成21年）8月14日号「週刊朝日」の記事「現代終活(しゅうかつ)事情」が初出で造語とされています。安心して生涯を終えることができるように自分はどうしたいのか事前準備を通して、これからの時間をどう生きるか、何が人生で大切なのかを改めて考える機会が「終活」ではないでしょうか。